

文学研究科修士課程 仏教学専攻（2015年度以降 第1学年次入学者適用）

区分	科目名	単位数	1) 知識			2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力	科目概要（2022年度シラバスより）
			①浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている	②専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている	③専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関する学際的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせながら独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている	
基礎科目	仏教学研究基礎1	2	◎		○	◎	◎				専門的に浄土学、および法然浄土教の研究を進めるに当たって、基本的に把握しておくべき事柄について講義する。具体的には浄土教の教理・歴史・術語といった基礎情報と、研究領域、研究方法、研究対象となる文献、研究史の回顧と今後の展望などについて、資料を用いながら講義する。あわせて浄土教・法然浄土教それぞれの、成立の母胎となった大乗仏教、とくに中国・日本仏教の教義・教理史について、浄土教や法然との関係性を中心に講義する。
	仏教学研究基礎2	2	◎		○	◎	◎				現在では仏教学の研究分野はインド・中国・日本など地域によって細分化されている。ただしいずれの分野であってもそれぞれの言語・文化的背景に関する知識の習得が不可欠であるのは言を俟たない。本講義では中国仏教研究と中国学との関わりを、隋唐仏教・浄土教研究の事例を挙げながら解説する。仏教学の一類型を学習することによって、他分野（インド・日本）の方法論を相対化する思考を学んでいく。
特殊研究科目	法然教学特殊研究	2	○		◎			○			浄土宗鎮西派第三祖良忠の代表的著作、『選択伝弘決疑抄』は、法然著『選択集』との関連で引用されることは多いが、それ自体の研究が進んでいるわけではない。『選択伝弘決疑抄』の解明に挑戦しつつ『選択集』も理解していく。
	浄土教学特殊研究1	2	○		◎			○			法然浄土教の基本典籍である『選択集』を精読し、研究する。
	浄土教学特殊研究2	2	○		◎			○			法然浄土教の基本典籍である『選択集』を精読し、研究する。
	仏教学特殊研究1	2	○		◎			○			初期仏教思想に内容の関連性が深いとされる『カタ・ウバニシャッド』の原典をシャンカラ注と現代語訳を参照し講読する。その上で、仏教に至る諸問題を講究する。
	仏教学特殊研究2	2	○		◎			○			善導大師の『往生礼讃偈』を儀礼書として読解する
	仏教学特殊研究3	2	○		◎			○			チベット大蔵経に所収される沙弥戒の条文及びその注釈書、そしてチベット人による複註を読解する。
	仏教文化特殊研究	2	○		◎			○			宗祖の伝記は、門弟が祖師を尊敬するあまり、伝説的でカリスマ性を帯びた、神格化され姿で描かれる場合が多い。法然の絵伝もそういった傾向にある。しかし一方で、その神格化の意味合いとすることを考慮していく必要もある。歴史の中で、神格化をどう位置づけるのか。また神格化された姿を剥ぎ取った、歴史的事実としての法然はいかなるものか。文化的側面を考えつつ、神格化の学問的意義を問い、歴史的事実としての法然像を論じていく。
専攻科目	法然教学演習1	2	◎			○	○		○		(1) 法然の『選択集』のうち、第八章の廻向発願心の部分より第九章「四修」にかけて、桑門秀我『選擇本願念佛集講義』等を参照しながら精読する。(2) 本文の現代語訳や訳注作業等を行うことによって問題の所在を意識しながら議論を深める。(3) 問題の多い箇所については、石井教道『選択集全講』を参考にしながら西山・真宗等の解釈をも参照する。
	法然教学演習2	2	◎			○	○		○		平成8年に梶村昇・曾田俊弘によって公刊された『大徳寺本拾遺漢語灯録』（『浄土宗学研究』22号）は、了慧道光の集成した法然関連の貴重な資料である。内容は、三昧発得記、夢記、伝記、臨終記、法語など多岐に亘っている。他文献と対比しながら精読し、法然の生涯と思想をじっくり考える機会としたい。分担者は、写本版と活字本を突き合わせて訂正を試み、訓読、現代語訳、注を作成することとする。その際、平行資料がある場合には対比を試みてほしい。それを参加者全員で検討し、大いに議論を深めることが出来ればと思う。
	浄土教学演習1	2	◎			○	○		○		善導『観経疏』の定善義を、良忠『観経疏伝通記』および善導以外の『観経』注釈書を参照しながら講読する。
	浄土教学演習2	2	◎			○	○		○		善導『観経疏』の散善義を、『観経』、良忠『観経疏伝通記』および善導以外の『観経』注釈書を参照しながら講読する。
	仏教学演習1	2	◎		○	○	○		○		パーリ語で現存する<パーリ律>の経分別について、原典ならびに註釈文献である『サマタパーサーディカー』を用いて読解を行う。<パーリ律>経分別には、律蔵の根幹を形成する波羅提木叉（学処）が含まれており、仏教団の構成員に課せられた規則とその解釈・運用方法などが体系的に説かれている。本講義では、パーリ原典を読むだけでなく、律に対して註釈を行ったブッダゴースの『サマタパーサーディカー』も参照しながら、南方上座部における律の内容や解釈の伝統について考察を行っていく。
	仏教学演習2	2	◎		○	○	○		○		パーリ語で現存する<パーリ律>の難度「小品」について、原典ならびに註釈文献である『サマタパーサーディカー』を用いて読解を行う。<パーリ律>難度「小品」には、ブッダの生涯の一部を語る伝説が含まれており、仏教団の維持・運営に関わる多様な内容が因縁となる物語とともに語られている。本講義では、パーリ原典を読むだけでなく、律に対して註釈を行ったブッダゴースの『サマタパーサーディカー』も参照しながら、南方上座部における律の内容や解釈の伝統について考察を行っていく。
	仏教学演習3	2	◎		○	○	○		○		クシャーナ王朝時代の仏教詩人アシュヴァゴーシャの代表作である『ブッダチャリタ』と『サウンドラナダ』からサンスクリット学習に相応しい章を選び、他文献と比較しながら解読してサンスクリット語読解力を高めるとともにアシュヴァゴーシャの思想を探る。
	仏教学演習4	2	◎		○	○	○		○		クシャーナ王朝時代の仏教詩人アシュヴァゴーシャの代表作である『ブッダチャリタ』と『サウンドラナダ』からサンスクリット学習に相応しい章を選び、他文献と比較しながら解読してサンスクリット語読解力を高めるとともにアシュヴァゴーシャの思想を探る。
	仏教文化演習1	2	◎		○	○	○		○		仏教研究において、文献史料を正確に読解する力が重要なのは言うまでもない。特に、仏教の社会的位置づけや役割を考える際、古文書や古記録（日記）といった歴史史料を読むことが重要となる。これまでに残されてきている多くの歴史史料には、当時活躍した僧侶たちの日々の活動や人間関係の様子が垣間見えるだけでなく、法会の様子やその敷設、寺社の経済的活動のあり方など、仏教と社会の多面的な様相が記されている。また、記主（筆者）の信仰や考えを読み取ることも可能であろう。ただ、中世の古記録（日記）は変体漢文（和化漢文）で記されており、また人名比定や語彙・用例など、その読解には一定の訓練が必要である。また、刊本の翻刻や校訂・人名比定が不十分である可能性もあり、それらを正確に理解するには、記主の役割や動静を考慮しながら読解していかなければならない。以上の観点から、本授業では鎌倉時代の貴族である平経高が記した日記である『平戸記』を講読し、古記録を読む力を身につけていく。
	仏教文化演習2	2	◎		○	○	○		○		日本中世には盛んに法会が催されていた。法会では多くのことが語られ語り継がれたが、表白・願文などに関する資料は、現在まで残されている。法会の種類・目的・規模は多様であり、それらの資料を読み解き、一つ一つの法会への理解を積み重ねることによって、ようやく法会文化の全体像を展望することができる。本授業では、院政期から鎌倉時代にかけての唱導の名手である澄憲・聖賢父子が残した表白集『転法輪抄』を読むことで、中世の法会文化への理解を深め、仏教文化の一側面を具体的に明らかにする。

区分	科目名	単位数	1) 知識			2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力	科目概要 (2022年度シラバスより)	
			①浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている	②専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている	③専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関する学際的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ上で独創的に遂行し、その成果を一定水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている		
専攻科目	演習科目	仏教文化演習3	2	◎		○	○	○	○		専門的な研究書・研究論文を読みこなし、自主的に研究を推し進め、教材としても活用できるようにするためには、文献資料の読解能力が必要となる。そこで本演習では仏教美術および仏教文化に関する漢文資料として、円仁の『入唐求法巡礼行記』を取り上げ、輪読形式でテキストを読み進める。あわせて、講読箇所に関連する実作例や先行研究について調べ、発表を行う。講読箇所は前年度の続きから開始する。	
		仏教文化演習4	2	◎		○	○	○	○		専門的な研究書・研究論文を読みこなし、自主的に研究を推し進め、教材としても活用できるようにするためには、文献資料の読解能力が必要となる。そこで本演習では仏教美術および仏教文化に関する漢文資料として、円仁の『入唐求法巡礼行記』を取り上げ、輪読形式でテキストを読み進める。あわせて、講読箇所に関連する実作例や先行研究について調べ、発表を行う。春学期の続きから講読を開始する。	
	研究指導科目	仏教学研究指導演習1	2					◎		○	○	「仏教学研究指導演習1～4」は、修士論文作成のために、一連の科目として設けられた演習であり、個別研究を対象に、その概要・構成・研究計画などの検討・指導を行う。1～4のいずれにおいても、専門分野を同じくする教員との議論を積み重ね、研究レベルの向上を目指すことを目的としている。本科目は、その第1段階として、先行研究の動向を精査し、論点の整理や課題の明確化を行い、自己の研究の要点を明確にした上で、修士論文完成に至るまでの実質的な研究計画の策定を行う。
		仏教学研究指導演習2	2						◎		○	本科目は、「仏教学研究指導演習1～4」の第2段階として、研究テーマをより確実なものとするために、文献資料を主とする研究対象を、より深く検討することに主眼を置く。その成果を研究動向に照らしつつ、設定したテーマの再検討を行い、必要に応じて次年度にむけて研究計画の修正を行う。
		仏教学研究指導演習3	2						◎		○	本科目は、「仏教学研究指導演習1～4」の第3段階として、策定した研究計画に従って、修士論文の構想を固めて草稿を作成することに主眼を置く。
		仏教学研究指導演習4	2						◎		○	本科目は、「仏教学研究指導演習1～4」の第4段階として、学内における研究発表会を通して論旨を補強し、草稿を再検討するなどのブラッシュアップを行い、修士論文を完成させることに主眼を置く。
	関連科目	仏教学特論1	2		△	△				△		インドの仏教は経典とは別に、釈迦牟尼の生涯、あるいは前世を伝える「仏伝」というジャンルを作り上げた。この「仏伝」はなぜ編纂されたのか、そしてそれは何を伝えようとしたのか。この授業ではパーリ語やサンスクリット語の原典に基づきながら「仏伝」の成立と展開を解説し、そこに伝承されるブツ観の変遷をとらえて、教理・思想史からの側面だけでは理解できない仏教の歴史を見る。
		仏教学特論2	2		△	△				△		法然門下諸師が諸行(念仏以外の行)を、それぞれの教義体系の中でどのように位置づけてきたのかを、原文を講読することにより明らかにしてゆく。具体的には、まず最初に教員が法然の諸行観を概説する。続いて受講生によって以下の諸師の文献講読を行う。即ち、聖光・良忠(鎮西義)、隆寛(長楽寺義)、証空(西山義)、長西(諸行本願義)、親鸞(一向義)の諸文献である。最後に諸師の諸行観の比較対照表を、授業内課題として作成して頂く。講義方法としては原文講読が中心となる。受講生に原文の現代語訳をして頂き、それを教員が訂正・解説する形で授業を進める。現代語訳の発表は授業当日、アトラダムに指名してゆく。受講人数によっては頻りに指名される可能性あり。なお、講読テキストは教員が準備する。